

---

# Bloody Alice

夜月 零

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

B l o o d y   A l i c e

### 【Nコード】

N 9 2 3 7 Z

### 【作者名】

夜月 零

### 【あらすじ】

実際、”不思議の国のアリス”は、

“現実”に存在する。

しかも、昼は人間にまぎれて生活し、夜は・・・。

人を襲うんだ

そんな危険な Alice を倒すために集められた集団がある。

その名も、

ガーディアン  
守護者

ある男の問いかけ。(前書き)

そこまで、怖い内容にはしておりません。  
血はあまり出ません。  
ご安心を。

ある男の問いかけ。

ねえ、君は知ってる？

「不思議の国のアリス」のお話を、

そうそう、アリスが穴へ落ちて不思議の国で、アリスが冒険する  
たあのしいお話だ。

でも、そんなたあのしいお話は、童話の中でしか許されない話だ。

実際、”不思議の国のアリス”は、

“現実”に存在する。

しかも、昼は人間にまぎれて生活し、夜は・・・。

人を襲うんだ

そんな危険なAliceを倒すために集められた集団がある。

その名も、

ガーディアン  
守護者

## 表向きの彼ら。

東京都 豊島区池袋AM9：00

ある高校の朝のH・M ホームルーム。

キンコーンカーンコーン、

？「おい、もう座れ、時間だぞ…あ、そこのお前、遅刻だからな、」

教師らしいような、教師らしくない大人が教室に入ってきた。

いまにも座りそうな、男子高校生が、俺？という風に自分を指でさしていた。

？「ゲツ…遅刻？マジかよ…これくらい見逃して…！」

お願いのポーズをするが、ムダだったようだ。

遅刻してきたこいつは、キサラキ ナイト如月騎士、

一見チャラそう…いや、少しチャラいのだが、学年トップという見た目が残念な優等生。

？「だーめーだ、教師なめんなよ？」

このだるそうにしているが、一応このクラスの担任をやっているこの大人は、

サイジヨウ ツカサ三城 司、クラスでいじられ役、そして苦勞人。

騎士「ちえーケチー…」

司「ケチじゃねよ、教師だつーの…あとお前、教師の前で堂々と寝るな、」

持っていた出席簿で寝ていた生徒をたたく。

？「いつつつつ…すんません…」

叩かれた頭を痛そうにさすりながら顔を上げているのは、ニノマエレン一蓮、

このクラスで一番まともで普通なのにこのクラスはキャラ濃い生徒が多いので、

あまり目立たないという残念な主人公。

司「はあ…いつになったらこのクラスはまともになるんだ？」

？「いくらかかっても無理だよ、兄弟？」

？「そうだよ、いくらかかっても無理だよ、兄弟」

クラスの中で唯一の双子、和泉<sup>イズミ</sup> 右、和泉<sup>イズミ</sup> 左、

見た目ではどっちがどっちか分からないくらい似ており、  
いたずら好きで、お金好きといういらぬおまけ付き。

司「おい…その聞こえてんぞー！！！」

右「ちつ…ねえ、兄弟？前から思ったんだけど、あのオッサンって  
地獄耳だよねえ…」

左「そうだね兄弟、もう年なのに自分に都合の悪いことだけ聞こえ  
ちゃうんだから最悪だよね…」

司「なにか恨みでもあるのか（怒）このバカ兄弟、」

そんな風に騒いでいると…。

？「うつせーよ、このアホ教師、」

机に足を置きながら携帯をいじり、そして教師に向かって暴言を吐  
いているとんでもないこの女は、

東雲<sup>シノメ</sup> 律<sup>リツ</sup>、見た目は大人っぽくてきれいだが、

実は携帯依存症であり、口をあけると残念。

？「そーですよ、もう子供ではないのですから朝から騒がないでく  
ださいオ・ジ・サ・ン？

…あ、律さんはいいですからね？」

律の横で教師に生意気な口をきいているのは、柏木<sup>カシワギ</sup> 悠<sup>ユウ</sup>、

律のことをとても尊敬しているためいつもくっついて歩いている。

見た目は可愛いが性格が少し…いや、かなり病んでいる。

司「お前らこそうるせーよ、携帯女、ぶりっこ、それと携帯のため  
にコンセントを使うな、

学校を何だと思ってるんだ…」

？「退屈しのぎ…ZZZ…」

机に顔をうつぶせながらつつこんだのは、不知火<sup>シラヌイ</sup> 斑<sup>マダラ</sup>、

寝ることが多く、興味があること以外ほぼ寝ている。

そして、無理に起こそうとすると、とても…いや、かなり怖い。

司「うわ…サイテーだな、つーかお前も起きろよ、」

斑「ヤダ…寝る…ZZZ…」

司「起きろって、起こせやしねえ、こいつは起こすと豹変するからな、」

司は、頭をガシガシと掻きながら教卓の後ろに立つ。

司「さ、始めるぞ、」

。

これが、”オモテ”向きの俺達の日常だ。

そして、”ウラ”向きの姿は…。

。

東京都 豊島区池袋PM14:25

ある学校の帰り時刻、

司「…これで終わる、」

司の声とともに一斉にクラスの生徒たちが、帰っていく。

騎士「おーい蓮、一緒に帰らないか？」

蓮「ああ、いいよ」

俺と騎士は幼馴染で仲がいい。

騎士「なあ、今日暇か？」

蓮「わりー今日夜バイトでさ、少し寝なきゃ、」

そう、今日は大好きなお仕事だ。

騎士「そっかバイトか…ってかお前バイトやってたっけ？何のバイトやってんの??」

蓮「コンビニ…とか？」

一応何のバイトかを教えていない、教えてはいけないルールになっている。

たとえ、家族であつても親友であろうとも。

騎士「何で疑問系なんだよ…。」

蓮「だってまともに言ったら来るだろ…。」

騎士「そりゃ、もちろん、だっておもしろいだろ？」

蓮「ぜってー教えねー…。」



そう話していると、蓮の携帯が鳴った。

蓮「ゴメン騎士、ちよつと出てくる」

騎士「わかったじゃ、校門も前で待ってる」

蓮「じゃあ、後でな、」

蓮「はいもしもし、帽子屋ですけど、」

蓮「はいはい、11:15にそっちに行けばいいんですね、分かりました」

さつき言っただとおり、騎士は校門の前で待っていた。

蓮「ゴメン、待たせた」

騎士「誰だったんだ？まさか、彼女？」

蓮「んなわけねえだろ、バイトからだよ、バイトから、」

騎士「んだよ、つまんねえな、ま、いいや、帰るぞ、」

蓮「おう、」

帰ったら、早く準備しないと、早くお仕事に行きたいし、早く、アノ場所へ。

表向きの彼ら。(後書き)

正直こんなクラスあったらいいなあ〜て思いましたが、  
あったらあったらで、逆に迷惑だなあ〜て思ったりもします。  
皆さんはどう思いますか??

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9237z/>

---

Bloody Alice

2011年12月29日22時48分発行